日立製作所（6501）

連結	売上収益	調整後営業利益	当期利益	1株益	1株配
23.3	108,812 億円	7,481 億円	6,491 億円	136.9円	29.0円
24.3	97,287 (▲11%)	7,558 (+1%)	5,899 (▲9%)	126.9円	36.0円
25.3 予	97,200 (▲0%)	9,420 (+25%)	6,310 (+7%)	139.6円	40.0円
26.3 予	103,100 (+6%)	10,500 (+11%)	8,060 (+28%)	180.6円	44.0円

株価情報（4/18時点）

株価：	3,400円	時価総額：	15.6兆円
株価純資産倍率（PBR）	24.3実：		2.8倍
株価収益率（PER）	25.3予：		24.4倍
自己資本利益率（ROE）	25.3予：		10.8%
配当利回り	25.3予：		1.2%

大和証券予想（25/4/7時点）、実績は決算短信。IFRSベース。当期利益は親会社の所有者に帰属する当期利益を示す。調整後営業利益＝売上収益－売上原価－販管費。24/7/1を効力発生日とした1:5の分割を実施。遡及修正済み。

今期２度目の上方修正。電力需要の拡大は不変

DX、GX の追い風に生成 AI ブームが拍車をかける

DX（デジタル）、GX（環境）を成長機会とする。そこへ生成 AI ブームが拍車をかけている。米 IT 企業のグローバルロジック社、スイス重電 ABB の送配電事業を買収し IT、環境分野を強化。一方で、日立 Astemo を含む非中核事業の切り離しは 24/3 期に完了した。社会インフラを手掛けることを強みに IT を使ったソリューションビジネス「Lumada 事業」を展開することで、売上拡大・収益性改善を図る。

2 度目の上方修正。25/3 期は 23%営業増益へ

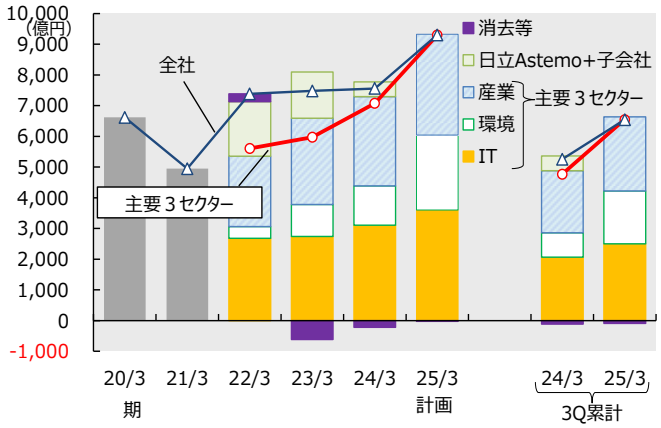
25/3 期 3Q 累計（4-12 月）の調整後営業利益（以下、営業利益）は 6,549 億円（前年同期比 25%増）と市場予想を上回った（図表①）。非連結化した日立 Astemo を除いた主要 3 セクターでは、16%増収、37%営業増益と好調。営業利益率は 9.3%と同 1.5%pt 改善した。拡大する DX、GX の需要を捉えた。

25/3 期通期の営業利益計画は 9,300 億円(前期比 23%増)と前回より 550 億円増額。今期 2 度目の上方修正。将来の売上につながる 3Q 累計の受注は拡大。IT 分野は 2.2 兆円（前年同期比 7%増）、環境分野は 5.3 兆円(同 48%増)とどちらも売上収益を上回る水準。高採算な Lumada 事業の通期計画は、好調な実績を踏まえ、18%増収→23%増収へ上方修正した。

日立エナジーの受注は 1.6 兆円、鉄道にも期待

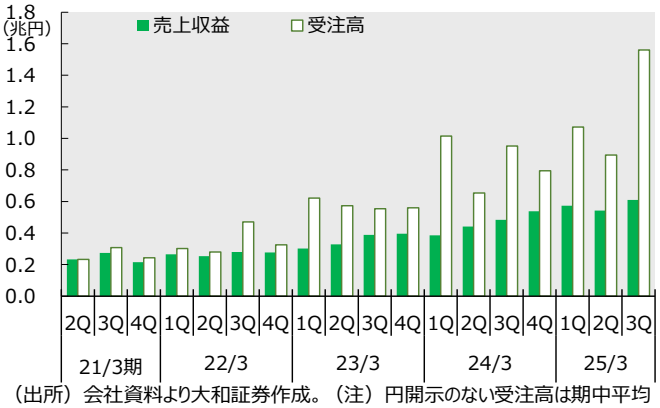
環境（電力機器、鉄道）分野が成長を牽引する。電力機器を手掛ける日立エナジーの 3Q の受注高は 1.6 兆円（前年同期比 64%増、図表②）と大きく拡大した。再生可能エネルギーの送電網や、データセンター向け変圧器など需要が拡大している。安価な AI の台頭はデータセンター投資を拡大させよう。一方で、同分野の 3QLumada 売上収益は同 61%増と大きく伸長。鉄道システムでエヌビディアと開発した HMAX（センサーを使った AI 保守点検サービス）の引き合いが欧州・アジアなどで堅調に増加した。利益率の改善が課題とされていたが、サービス強化により新たな成長材料として期待が高まっている。（津田　遼太）

① セグメント別調整後営業利益



（注）22/3 期よりセグメント変更あり。主要 3 セクターの折れ線グラフには、その他、全社及び消去を含む。IT:デジタルシステム＆サービス、環境：グリーンエナジー＆モビリティ（含日立エナジー）、産業：コネクティブインダストリーズ。（出所）会社資料より大和証券作成。25/3 期は会社計画。子会社は日立建機、日立金属。

② 日立エナジーの売上収益と受注高



（出所）会社資料より大和証券作成。（注）円開示のない受注高は期中平均為替レートにて計算。3Q＝10-12 月期。

株価推移（週足）

（出所）東京証券取引所、修正株価ベース

本資料は、投資の参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資に関する決定は、銘柄選定を含め最終的にはご自身の判断でなさいますようにお願い申し上げます。本資料は、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行なう場合、約定代金に対して最大 1.26500%（但し、最低 2,750 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては約定代金に対して最大 0.99000%の国内取次手数料（税込）に加え、現地情勢等に応じて決定される現地手数料および税金等が必要となります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動（裏付け資産の価格や収益力の変動を含みます）による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行なうにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行なうことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により売買する場合は、その対価（購入対価・売却対価）のみを受払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失が生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失が生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された各種手数料等（最大 3.3%（税込）の購入時手数料、換金時には、1 口（当初 1 口＝1,000 円）につき最大 22 円（税込）の解約手数料や最大 0.5%の信託財産留保額、間接的にかかる費用として、運用管理費用（国内投資信託の場合には信託報酬として最大年率 2.420%（税込）、外国投資信託の場合には管理報酬等として最大年率 3.755%程度）、その他運用実績に応じた成功報酬やその他の費用・手数料等（運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません））をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。各商品の目論見書等のご請求は、大和証券のお取引窓口までお願いいたします。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行なわれていないものもあります。

商号等　：大和証券株式会社　／　金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第108号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本 STO 協会

【保有株式等について】
大和証券は、このレポートに記載された会社が発行する株券等を保有し、売買し、または今後売買することがあります。大和証券グループが、株式等を合計 5%超保有しているとして大量保有報告を行なっている会社は以下の通りです。（2025 年 3 月 31 日現在）

L is B(145A)　シンカ(149A)　PRISM BioLab(206A)　エスコンジャパンリート投資法人(2971)　サンケイリアルエステート投資法人(2972)　SOSiLA 物流リート投資法人(2979)　日本アコモデーションファンド投資法人(3226)　森ヒルズリート投資法人(3234)　産業ファンド投資法人(3249)　アドバンス・レジデンス投資法人(3269)　アクティビア・プロパティーズ投資法人(3279)　GLP 投資法人(3281)　コンフォリア・レジデンシャル投資法人(3282)　日本プロロジスリート投資法人(3283)　星野リゾート・リート投資法人(3287)　One リート投資法人(3290)　イオンリート投資法人(3292)　ヒューリックリート投資法人(3295)　日本リート投資法人(3296)　サムティ・レジデンシャル投資法人(3459)　野村不動産マスターファンド投資法人(3462)　ラサールロジポート投資法人(3466)　スターアジア不動産投資法人(3468)　三井不動産ロジスティクスパーク投資法人(3471)　日本ホテル＆レジデンシャル投資法人(3472)　投資法人みらい(3476)　三菱地所物流リート投資法人(3481)　CRE ロジスティクスファンド投資法人(3487)　ザイマックス・リート投資法人(3488)　タカラレーベン不動産投資法人(3492)　カヤック(3904)　レナサイエンス(4889)　ティムス(4891)　ケイファーマ(4896)　TDK(6762)　アドバンテスト(6857)　太陽誘電(6976)　日本ホスピスホールディングス(7061)　アストマックス(7162)　クレディセゾン(8253)　あおぞら銀行(8304)　アドバンスクリエイト(8798)　日本ビルファンド投資法人(8951)　ジャパンリアルエステイト投資法人(8952)　日本都市ファンド投資法人(8953)　オリックス不動産投資法人(8954)　日本プライムリアルティ投資法人(8955)　ＮＴＴ都市開発リート投資法人(8956)　グローバル・ワン不動産投資法人(8958)　ユナイテッド・アーバン投資法人(8960)　森トラストリート投資法人(8961)　インヴィンシブル投資法人(8963)　フロンティア不動産投資法人(8964)　日本ロジスティクスファンド投資法人(8967)　ＫＤＸ不動産投資法人(8972)　大和証券オフィス投資法人(8976)　スターツプロシード投資法人(8979)　大和ハウスリート投資法人(8984)　ジャパン・ホテル・リート投資法人(8985)　大和証券リビング投資法人(8986)　ジャパンエクセレント投資法人(8987)　GREEN Earth INSTITUTE(9212)　帝国ホテル(9708)（銘柄コード順）

【主幹事を担当した会社について】
大和証券は、2024 年 4 月以降下記の銘柄に関する募集・売出し（普通社債を除く）にあたり主幹事会社を担当しています。

D&M カンパニー(189A)　タウンズ(197A)　フィットイージー(212A)　タイミー(215A)　シマダヤ(250A)　オルツ(260A)　リガク・ホールディングス(268A)　グロービング(277A)　キオクシアホールディングス(285A)　令和アカウンティング・ホールディングス(296A)　dely(299A)　visumo(303A)　ミーク(332A)　ジグザグ(340A)　デジタルグリッド(350A)　LIFE CREATE(352A)　矢作建設工業(1870)　明治ホールディングス(2269)　エスビー食品(2805)　SRE ホールディングス(2980)　東海道リート投資法人(2989)　ヒューリック(3003)　ジョイフル本田(3191)　コンフォリア・レジデンシャル投資法人(3282)　アイカ工業(4206)　ぴあ(4337)　ユー・エス・エス(4732)　ＪＸ金属(5016)　インフロニア・ホールディングス(5076)　京都フィナンシャルグループ(5844)　三井海洋開発(6269)　キッツ(6498)　KOKUSAI ELECTRIC(6525)　ゆうちょ銀行(7182)　スズキ(7269)　アズワン(7476)　幸楽苑(7554)　梅の花(7604)　大日本印刷(7912)　スターゼン(8043)　サンリオ(8136)　三信電気(8150)　平和不動産リート投資法人(8966)　ジャパン・ホテル・リート投資法人(8985)　テレビ朝日ホールディングス(9409)　ソフトバンク(9434)（銘柄コード順）

本資料は、投資の参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資に関する決定は、銘柄選定を含め最終的にはご自身の判断でなさいますようにお願い申し上げます。本資料は、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。